

「防災観光」を目的とした被災地視察を行いました（2018/2/28-3/1）

テーマ：防災観光、APRU, 震災遺構

場所：気仙沼市、南三陸町、石巻市、女川町、仙台市

2018年2月28日-3月1日の2日間、「防災観光」を目的として、APRU加盟大学（UCデービス、ニューサウスウェルズ大学、シンガポール国立大学、シンガポール南洋理工学、香港中文大学、チュラロンコン大学、東北大学）から8名、マレーシア国民大学、さらにIFRC（国際赤十字・赤新月社連盟）から合計10名を被災地へ案内し、東日本大震災の経験・教訓・復興政策を学びました。当研究所からは、柴山明寛准教授（情報管理・社会連携部門）、泉貴子准教授（地域・都市再生計画部門）が参加し、海外からの参加者に被災地の説明などを行いました。本プロジェクトは仙台市、宮城県のインバウンド向け防災観光の基盤整備業務で実施されたもので、当研究所及び近畿日本ツーリストが中心となって企画したものです。

訪問先は以下のとおりです：

- 気仙沼市：海の市、魚市場
- 南三陸町：防災庁舎、
- 女川町：女川駅、シーパルピア
- 石巻市：旧大川小学校
- 仙台市：震災遺構 仙台市立荒浜小学校

参加者は各自治体の異なる防災対策や復興について学び、防災対策が決して一つではないこと、震災遺構の大切さ、地域に適した様々な防災・復興が存在すること、教育や伝承の大切さを実感し、感銘を受けておられました。また、「今後、学生と共に再訪したい」、「今回の視察で学んだことを同僚、学生、家族と共有したい」などの感想をいただきました。



旧大川小学校



震災遺構 仙台市立荒浜小学校



震災遺構 仙台市立荒浜小学校



女川町



南三陸町



南三陸町